カトリック
広島教区報

No. 138
カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
瀧井英昭神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区幟町 4-42
広島司教館内
TEL（082）221-6017

通常聖年（2025年）に向けて準備しよう

広島教区　アレキシオ　白浜　満　司教

はじめに

広島教区が、創立百周年後の新たな歩みをはじめて、半年が経過しています。百周年後の教区の方向性を、ともに考えるために開催された「2020教区代表者会議」（2021年～2022年）の提言を受けて、2024年度から長期（10年間）の宣教司牧目標が、「ともに歩むあたたかさのある教会をめざそう」に設定され、また、最初の3年間の中期目標が「あたたかさの源泉に立ち帰る（典礼活動）」となっています。教会が「あたたかさ」を帯びて行くために、なぜわたしたちは、典礼活動に目を向けるのでしょうか。

白浜司教　司牧訪問（倉吉教会）

第二バチカン公会議から60周年

来年（2025年）でちょうど、第二バチカン公会議が閉幕して60周年を迎えます。この公会議は、最初に公布した「典礼憲章」（10番）で、「典礼は教会の活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る源泉である」と教えました。第二バチカン公会議のこの教えが、向こう10年間の宣教司牧目標の背景にあります。教会の活動の力、教会が帯びる「あたたかさ」は、神からの恵みそのものであり、何よりも、「神とともに歩むこと」こそ、「ともに歩む」（シノドス的な）教会の中心であることを再確認したいと思います。

「あたたかさの源泉に立ち帰る」という3年間の中期目標のために、わたしたちは、さらに二つの新たな恵みの風を受けています。その一つは、2022年6月に公布された教皇フランシスコの『わたしは切に願っていた』という使徒的書簡、もう一つは、来年

司教メッセージ・じゃけえのう　1～4面
教区の動き　5面
地区便り・海峡からの風　6～7面
広島地区ベトナム青年大会の報告　7面
青少年・ひと粒　8面

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね！」という意味。

～永井隆博士をしのんで～ 第42回平和祈願ミサのご案内

松江市に生まれ、雲南市に育ち、長崎医科大学で医師の道を歩んだ永井隆博士は、放射線医学の研究から白血病に侵され、また長崎の原爆で重傷を負いながらも負傷者の救護や長崎の復興のために尽くし、43歳で生涯を閉じるまで病床から「如己愛人（にょこあいじん）」「平和を」のメッセージを全世界に訴え続けました。

この永井隆博士を偲び、1982年にリントホルスト神父様・深堀升治神父様により始まった巡礼・祈りの集いも回を重ね今年42回目を迎えました。

今年度も2024年11月23日（土・祝）に雲南市永井隆記念館にて10時～13時の予定で、如己の会、雲南市、カトリック広島教区伯雲協働体（米子・出雲・松江教会）合同の「平和祈願ミサ～パウロ永井隆博士をしのんで～」を行います。

世界中のあらゆる所で頻発している争い（戦争）や圧政が絶えない今日、博士の精神に学び「平和について」「隣人を愛する～如己愛人」を思い起こし、共に祈りをささげることが出来ればと思っています。

今年度は、イエズス聖心侍女会のSr.ジュリエッタに「韓国如己の会について」のお話をお願いしています。（担当教会：カトリック松江教会・裏辻るみ）

＊行事の詳細は、2ページのポスターをご覧ください。

２０２５年の通常聖年です。前回の教区報では、２０２２年６月に公布された教皇フランシスコの使徒的書簡『わたしは切に願っていた』の内容を少し紹介していました。今回は、もう一つの恵みの風である２０２５年の通常聖年について紹介したいと思います。

聖年の祝いとともに

聖年には、25年ごとに祝われる「通常聖年」と、ある特別な機会に祝われる「特別聖年」の二種類があります。前回の通常聖年は、教皇ヨハネ・パウロ二世の時代に、キリスト生誕二千年を祝って紀元２０００年に開催された大聖年でした。その後、第二バチカン公会議の閉幕50周年を記念して、教皇フランシスコによって宣言された、「神のいつくしみ」をテーマとする特別聖年が、２０１５年12月８日～２０１６年12月８日に開催されました。（わたしが広島教区に迎えていただいたのは、この特別聖年の期間中でした。）

来年祝われる聖年は通常聖年になります。『希望は欺かない』というテーマで、２０２５年の通常聖年を布告する大勅書の中で、教皇フランシスコは「２０３３年には、主イエスの受難と死と復活によって成し遂げられた、あがないの二千周年が祝われます」（６番）と述べて、あがないの特別聖年を２０３３年に開催することも予告されています。教区創立百周年後の10年間の教区の新しい歩みは、２０２５年の通常聖年と２０３３年の特別聖年の祝いに縁どられた期間になります。この10年間に、わたしたちは「ともに歩むあたたかさのある教会」をめざして歩んでいきたいと思います。

希望の聖年（２０２５年）

「希望はわたしたちを欺くことはありません」（ローマ５・５）という聖パウロのことばで始まる大勅書の中で、教皇フランシスコは、「今、新たな聖年の時が来ました。この聖年の間に聖なる扉が再び大きく開かれ、キリストにおける救いという確かな希望を心に呼び起こす、神の愛の生きた体験がもたらされます（６番）」、「希望はまさしく愛から生まれ、十字架上で刺し貫かれたイエスのみ心からわき出る愛がその根本です」（３番）と教えています。「イエスのみ心からわき出る愛」を体験すること、この「神の愛の生きた体験」こそ「希望の源泉」、そして「教会のあたたかさの源泉」です。２０２５年の通常聖年において、わたしたちは「イエスのみ心からわき出る愛」を体験するように招かれています。教皇フランシスコのこの呼びかけは、「あたたかさの源泉に立ち帰る」という広島教区の中期の宣教司牧目標と、同じ方向を指し示しています。

〔開幕と閉幕〕

教皇フランシスコが、通常聖年を布告する大勅書の冒頭で、「すべての人にとって聖年が、救いの門である主イエスとの生き生きとした個人的な出会いの時となりますように」と述べているように、わたしたちが「救いの門」である主イエスと深い交わりを持つことができるよう、聖年の開幕においては、聖なる扉を開くという象徴的な儀式が行われます。今回の希望の聖年について、教皇フランシスコは、「わたしは、バチカンのサンピエトロ大聖堂の聖なる扉が、本２０２４年12月24日に開かれ、それをもって通常聖年の開始とすることを定めます。……また、２０２４年12月29日の主日に、すべての司教座聖堂……において、教区司教は聖年の荘厳な開幕として、感謝の祭儀を、その機会のために準備される儀式書に従ってささげるよう定めます」（６番）と宣言しています。

また、教皇フランシスコは、世界の各教区では、２０２５年12月28日の主日に、そして２０２６年１月

2024年

第４２回平和祈願ミサ

～パウロ永井隆博士をしのんで～

今回は、永井隆記念館で行います。
博士の“如己愛人”の精神に学び、ともに平和のために祈りましょう。

ながいたかし
（医学博士）
1908年（明治41年）松江市生まれ、
雲南市三刀屋町育ち。

長年の放射線研究の影響で白血病と診断され、余命3年と宣告された年の8月9日に長崎医科大学の診察室で被爆し、重傷をおいながらも献身的に犠牲者の為に尽くす。
1951年（昭和26年）43歳で没す。
『この子を残して』など著書多数。

10:00　開会・来賓あいさつ
10:15　平和祈願ミサ
12:00　講演　Sr.ジュリエッタ イエズス聖心侍女会
テーマ:『韓国如己の会』
13:00　閉会

日　時： 2024年11月23日（土・祝）10：00～13：00
場　所： 雲南市三刀屋町　永井隆記念館
主　催： カトリック広島司教区
伯雲協働体（カトリック米子・出雲・松江教会）
問い合わせ先： カトリック松江教会　(0852-21-4694)

6日（主の公現の日）に……バチカンのサンピエトロ大聖堂、聖なる扉が閉じられることをもって聖年が閉幕します（6番）と述べています。

聖年の「免償」について

教皇フランシスコは、聖年の期間中、「免償」を受けることの大切さを強調していますが、この「免償」という恵みは何でしょうか。わたしたちは、しばしば「罪のゆるし」と「免償」が、同じ意味であるかのように考えてしまうことがあります。しかし「罪のゆるし」と「免償」は同義ではありません。罪は、わたしたちの思い、ことば、行い、怠りによって、神のみ心に背くことです。その罪のゆるしは、わたしたちが心から痛悔し、ゆるしの秘跡にあずかることによって、キリストのあがない（＝救い）を通して、神から与えられる無償の恵みです。しかし、罪のゆるしが与えられた後も、人間の外面と内面に、罪による悪い痕跡（影響・結果）が残るのです。そのため、①罪が無償でゆされるということと、②罪の痕跡（影響・結果）が免じられる（清められる）ということを区別して考える必要があります。

一例として、ある信者が飲酒の度が過ぎてしまい泥酔して、他の人を殴り、傷を負わせたとします。加害者となった信者は、心から反省し、ゆるしの秘跡を受けて罪がゆるされても、被害者の体と心に負わせてしまった、外的または内的な損害（傷）は、そのままの状態で残るのです。そのため、加害者は、ゆるしの秘跡によって罪がゆるされた後に、被害者に謝罪をしてその人との人間関係を修復すると同時に、外的な傷の治療費などを負担するという償いが必要になります。また、加害者には、罪がゆるされた後にも、飲酒に対する愛着という内面的な弱さが、罪の痕跡（影響・結果）として残るのです。どのような罪（大罪・小罪）であっても、その罪がゆるされた後、罪への傾き・弱さ（よこしまな愛着）から、人はこの世であるいは死後、清められなければなりません。この清めが必要な状態を「有限の罰（煉獄）」、さらに神のいつくしみに背を向けて回心せず、決定的に神から離れてしまうことを「無限の罰（地獄）」ということもあります。

わたしたち一人ひとりは、ゆるし秘跡、心からの痛悔、愛の行い等を通して、神から罪のゆるしが与えられても、また司祭から勧められた償いを果たしても、罪の痕跡（影響・結果）は、人の外面と内面に残るのです。なお、どれだけ清めの状態が残されているのか、誰も正確には推し量ることができません。「どんな場合もキリストの恵みのおかげで」（23番）これらの罪の痕跡が免じられる（清められる）ように助けることが、免償の目的です。

免償に関する教令

教皇フランシスコによる『希望は欺かない―2025年の通常聖年を布告する大勅書』（カトリック中央協議会）という冊子の後ろに、「2025年の通常聖年の間に与えられる免償に関する教令」が、「教皇庁内赦院」から出されています。以下は、この教令の要約です。

免償を得るためには、おもに、①聖なる巡礼、②巡礼所への聖なる訪問、③慈善と償いのわざ、という大きく三つの手段が示されています。聖年の間に（後述する）三つの手段が果たされるだけでも免償の恵み（部分免償）は与えられます。さらにこれらの手段のいずれかに加えて、①ゆるしの秘跡にあずかり、②（ミサに参加して）聖体を拝領し、③教皇の意向に従って祈るという、三つの条件が満たされるならば、「全免償」の恵みが与えられます。そして、これらの免償の恵みは、生きている人の代願という形で、煉獄の霊魂にも与えられます。

①〔聖なる巡礼〕

「聖なる巡礼」とは、聖年のための巡礼所（大聖堂・聖堂）に巡礼して、そこでささげられる（聖年、和解、罪のゆるしのため、愛徳を願うため、一致のため等の）ミサ、キリスト教入信の秘跡や病者の塗油を授けるためのミサ、（個別告白・個別赦免を伴う）ゆるしの秘跡の共同回心式、神のことばの祭儀、教会の祈り（読書、朝の祈り、晩の祈り）、十字架の道行、ロザリオに参加することです。聖年のための巡礼所とは、ローマの四つの大聖堂（バジリカ）、聖地の三つの大聖堂のことです。詳しくは、教皇フランシスコ『希望は欺かない―2025年の通常聖年公布の大勅書―』50頁を参照してください。

その他に、教区司教は、自分の教区内の司教座聖堂、および他の聖堂を、免償を受けるための巡礼指定教会（聖堂）とすることが

できることになっています。

広島教区においては、各県に一つ、以下の教会を、巡礼指定聖堂とします。

広島教区 巡礼指定聖堂

・鳥取県　米子教会
・岡山県　岡山教会
（聖ディエゴ喜斎記念聖堂）
・広島県　幟町教会
（世界平和記念聖堂）
・島根県　津和野教会
・山口県　山口教会
（サビエル記念聖堂）

聖年のための巡礼所（大聖堂・聖堂）以外にもローマや世界の他の地域に巡礼所が指定されています。これについては、教皇フランシスコ『希望は欺かない―2025年の通常聖年公布の大勅書―』51～52頁を参照してください。

「（心から罪を痛悔していても）重大な理由でさまざまな典礼への参加や、聖なる巡礼や、訪問ができない信者（とくに男女の隠世修道者、高齢者、病者、受刑者、また、病院や他の看護施設で継続的に病者に奉仕する人々）は……、とくに教皇や教区司教のことばがさまざまなコミュニケーション手段によって伝えられるとき、そばにいる信者と心を一つにし、自宅または自分がとどまらなければならない場所（たとえば、隠世修道院、病院、看護施設、刑務所の礼拝堂）で、主の祈り、信仰宣言、そして聖年の目的にかなう他の祈りを唱え、自分たちの苦しみと生活の困難をささげることによって」、聖年の免償を受けることができます。

③慈善のわざと償いのわざ

信者は、キリストの模範と命令に従って、慈善のわざと償いのわざを頻繁に行うことにより、免償をいただくこともできます。

〔慈善のわざ〕

慈善のわざ（愛のわざ）には、身体的なものと、精神的なものがあります。

身体的な慈善とは、「飢えている人に食べさせること、渇いている人に飲み物を与えること、着る物をもたない人に衣服を与えること、宿のない人に宿を提供すること、病者を訪問すること、受刑者を訪問すること、死者を埋葬すること」です。同じように、困窮や困難のうちにある兄弟姉妹（病者、受刑者、孤独な高齢者、障害者……）をふさわしい頻度で訪問すること、などです。

精神的な慈善とは、「疑いを抱いている人に助言すること、無知な人を教えること、罪人を戒めること、悲嘆に打ちひしがれている人を慰めること、もろもろの侮辱をゆるすこと、煩わしい人を辛抱強く耐え忍ぶこと、生者と死者のために神に祈ること」などです。

〔償いのわざ〕

「具体的かつ寛大なしかたで、償いの精神を実践する取り組みを行うこと」です。とくに、金曜日の償い、少なくとも週に一度、無益な娯楽や過剰な消費を控えること、また、貧しい人々に適切な寄付をすること、宗教的・社会的な性格の援助活動（あらゆる段階のいのちを保護し守るだけでなく、見捨てられた子どもたち、困難のうちにある若者、困窮や孤独のうちにある高齢者、さまざまな国からの移住者の、生活の質を守る）を行うこと、適切な量の自由時間を、共同体に奉仕するボランティア活動や、他の同様な個人的な取り組みにささげることなどです。

②〔巡礼所への聖なる訪問〕

「巡礼所への聖なる訪問」とは、信者が「個人またはグループで、聖年の巡礼所を敬虔に訪れ、そこで適切な時間、聖体礼拝と黙想を行い、終わりに主の祈り、信仰宣言、神の母マリアへの祈願（アヴェ・マリアの祈りなど）を唱えることです。

通常聖年に向けて

「希望は欺かない」というテーマで開幕する通常聖年まで、あと約二か月足らずになりました。教区の皆さん、自分の人生の中で、有意義な「恵みの年」とするために、どのようにこの聖年を過ごしていけばよいのか、それぞれの計画を立ててみましょう。そして、わたしたちの希望であるイエス・キリストに導かれ、キリストの愛といつくしみを現代社会の人々に証しすることができる「あたたかさのある教会」をめざして、聖年を過ごして行きましょう。

教区の動き

＊「教区の日」報告

教区創立101周年目という新たな百年のスタートとなる今年の「教区の日」は、山口島根地区の徳山教会で開催されました。雨男と言われ続けてきた白浜司教様ですが、汚名返上できるくらい秋晴れの良い天気（但し、猛暑日）のもとで行われました。約150名が集まり、講演会、司教ミサ、プラチナ・ダイヤモンド祝のお祝いをしました。

初めに山口島根地区の地区長であり徳山教会の主任司祭でもある山口神父様（名前が覚えやすい）のウェルカム挨拶で始まり、続いて援助修道会の木村シスターによる記念講演がありました。内容は「霊における会話」の易しい説明で、教区の長期目標である「ともに歩むあたたかさのある教会」の土台でもあり、今まさに2年がかりで行われている世界シノドスでも実践されているタイムリーなもので、心にしみこむような分かり易く丁寧なお話でした。その後、司教ミサでこころひとつとなり、あたたかい気持ちでダイヤモンド祝のお祝いができました。徳山教会に来られたのはダイヤモンド祝（60周年）を迎える深堀神父様ひとりだけでしたが、参加できなかった方々の分も代表してもらいました。

来年の「教区の日」は岡山鳥取地区です。また再び広島教区がひとつに集まれることを今から楽しみにしています。

＊「2025聖年」企画の後援について

2024年12月24日から1年間にわたって、「2025聖年」が始まります。バチカンでは12月24日に教皇により聖ペトロ大聖堂の「聖なる扉」の開放を皮切りに、1年間37もの「祝祭」が行われます。広島教区においても「2025聖年」をどのようにお祝いするかを計画中ですが、教区の皆様からも以下の条件を満たす関連行事を募りたいと思います。皆様から提案された関連行事につきましては、平和の使徒推進本部において審査の上、後援行事とし、必要な経費の一部を助成することとしたいと思います。

①教区、地区、協働体、教区活動団体・委員会、地区活動団体・委員会が主催する行事であること（小教区行事は含みません）

②聖年を祝うのに相応しい企画であること

③担当司祭の推薦等があること

④行事を行う日が2024年12月24日から2026年1月6日の聖年期間内であること

ご不明な点は平和の使徒推進本部（pcaph@catholic.hiroshima.jp）までメールでお問合せください。ご応募お待ちしています。

＊可部教会、巡回教会から集会所へ

祇園教会の可部巡回教会（以下、可部教会）は、53年間にわたる歴史を持ち、2024年3月31日に可部地区の集会所として新たな形に生まれ変わりました。

1938年に布教活動が始まり、1960年代には石井昭三さん宅で月一回のロザリオ会が行われるようになりました。1965年に可部地区会が発足し、1970年12月には石井さん宅で初めてのミサが実施され、信者数は1971年には130人を超えました。そこで、同年6月25日、初代教会着工、8月15日に完成して初ミサが行われました。1973年からは毎週日曜日にミサが行われるようになり、信者数の増加に伴って、青空市（後の春のバザー）で二代目教会の資金を集め、移転を進めました。そして、1991年4月10日には三末司教から二代目教会の献堂証明書を受け取り、池尻神父の司式で祝別されました。雑木林の中に古い建物があるこの教会は、信徒の奉仕によって美しく整備が進められ、マリア像も庭園上部の一番良く見える場所に設置しました。2011年2月6日には教会の守護聖人としてメルキオール熊谷元直が命名されました。

この長い歴史の中で、教会は多くの信者に支えられ、多くの兄弟姉妹が天国に送り出されました。しかし、司祭や信者の減少により、2024年3月31日に閉鎖されることとなりました。教会の歴代の司教様、祇園教会の神父様、信徒会の皆様、そして教会行事に参加してくださった皆様に心より感謝申し上げます。長い間、本当にありがとうございました。

（祇園教会　岡川勇）

聖書通読写経キャンペーン　完了者紹介（敬称略）

◆聖書通読を完了された方◆
No.029　佐々木常廣
佐々木眞澄
岡山教会

聖書の通読、写経キャンペーンは継続して行っております。ぜひ個人で、グループで、家族で、取り組んでみてください。

地区便り

広島地区

＊ウォークラリーin植物公園＆廿日市教会訪問

植物公園

去る5月18日（土）広島地区教会学校リーダ会主催「ウォークラリーin植物公園＆廿日市教会訪問」が開催されました。参加者は子供（高校生以下）33名を含む総勢60名。6チームに分かれて植物公園内を巡りながら、各チェックポイントに用意されたクイズ、ミッションをクリアしてゴールを目指すウォークラリーを楽しみました。

お昼のお弁当はベンチや芝生広場の木陰など、各自思い思いの場所でいただき、自由時間には芝生広場を走りまわったり転がったりとみんな大喜びでした。その後、廿日市教会を訪問。恒例のウェルカムアイスクリームでクールダウンし、有野信徒会長の挨拶、アルベルト神父のお話をいただいた後、レクレーション（名前集めゲーム）で子どもも大人も大盛り上がり。楽しい時間を過ごしました。

神の御業のきれいな植物に触れ、いつもと違う聖堂を訪れ、新しい友達と遊び、楽しんだこの一日が子どもたちの心に残り、教会が居場所だと感じてもらえていれば幸いです。

山口島根地区

＊下関協働体夏のイベント

下関協働体（長府・細江・彦島）では、毎年夏のイベントとして8月上旬に聖フランシスコ・ザビエル下関上陸記念碑前での平和を祈る集いと、8月下旬に馬関まつり愛の広場への出店を行っています。今回は愛の広場出店について報告します。

馬関まつり愛の広場は下関市内の障がい者施設や児童福祉施設などが下関市役所前の広場に出店するイベントで、教会の外に出て、市民団体と一緒に参加できる唯一の機会です。今年はチヂミとかき氷を販売しましたが、好評で早々に売り切れました。神に感謝！

馬関まつり愛の広場　イベントの様子

岡山鳥取地区

＊「地区平和活動報告」岡山鳥取地区 正義と平和推進チーム

6月、沖縄慰霊祭に魂を馳せました（かつては現地巡礼）。

7月、日本山妙法寺平和

73 海峡からの風

下関労働教育センターだより

縁は異なもの

7月に下関でMy Dream～フィリピン・ミンダナオ子ども図書館とケニア・マゴソスクールのこどもの絵画展＆ギャラリートークを主催した。2019年にマゴソスクールのこどもの絵単独で実施した後、コロナ禍でお蔵入りになっていた企画だが、My Dreamというタイトルで絵を描いてもらって来た西村奈々子さんがミンダナオ子ども図書館のスタッフになったことから「ミンダナオのこどもたちにも絵を描いてもらって、併せて絵画展をしたい」とお願いして実現した。こどもたちは共に厳しい生活環境下で暮らしているにも関わらず、描かれる「夢」は実に明るく、そのコントラストを伝えながら夢の実現を目指すことの大切さを伝えてくれる。そして誰もが夢を実現できるように全力で応援することを目指したいと心に誓わせてくれる。

この企画の広報を本格的に開始した頃にロクスひよりやまで中井神父がミャンマー難民支援の集会を開いた。そこに通訳としてやって来たのが広島の小松真理子さん。彼女にチラシを渡しながら「広島でも開催したいなぁ」と軽く声をかけた所「広島にルワンダの小学校でインターンして来た学生が絵を展示する機会を求めている」とのこと。原田菜摘さんでルワンダのこどもたちに「自分にとっての平和」をテーマに絵を描いてもらって来たとのこと。話はとんとん拍子に進み、小松さんが預かっているアフガニスタンなどの子どもの絵も加えて、協働で絵画展を開催する運びとなった。そんな動きを見ていたマゴソスクールの主宰、早川千晶さんから東京武蔵野市でのイベントでも絵を展示するようお誘いがあり、一部のみだが展示する。

ぜひ見に来てください。そして開催してくださる所を募集しています。

My Dream & Peace～世界の子どもの絵画展：11月30日（土）12月1日（日）広島・合人社ウェンディひとまちプラザ（トークは30日午後）

子どもたちの未来のために私たちにできること：11月3日（日）東京・武蔵野スイングホール。

（大城　研司）

行進団岡山県内通過に同行しました。行進団のため、玉島教会が四日間宿泊場所を提供し、僧侶・神父・信徒の交流会も開きました。８月５日の広島教区平和行事には、神父・７小教区・ベトナム人信徒、37名がバスで参加しました。車中では、核爆弾の威力と被害の悲惨さを「広島・長崎、原子爆弾の記録」を回覧しながら追体験。途中、平和公園を一周しロザリオを唱え、投下直後に広島に入り救援をされたジュノー博士の顕彰碑とその隣のノーマン・カズンズ氏の記念碑の面影を追想。

広島に来られない方々も折った「祈り鶴」(注)１６５００羽をミサで奉献し、平和公園へ奉納しました。

ご協力下さったお一人おひとりに感謝です。

（注）祈りながら折った鶴

ヒロシマ平和巡礼団　祈り鶴16500羽奉納
（世界平和記念聖堂聖ヨハネ・パウロ2世教皇像前）

広島地区ベトナム青年大会 報告

8月11日（日）・12日（月）、ノートルダム清心中・高等学校のホール・講堂・体育館をお借りして、テェ神父さま指導のもと『広島地区ベトナム青年大会』を行い、約200人が参加しました。

2日間の食事は、青年たちを支えるベトナム人メンバー２０人が幟町教会に宿泊し、毎食手作りして運搬してくださいました。

【テーマ】『献身する若者』
【目　的】
- 2025年の聖年 ― 希望の年に向けて
- 教区内の若者たちに出会いと交流の場を提供する
- 若者たちの友情をつなぐ
- 家から離れた生活の中で互いに支え合い、励まし合い、美しい生活習慣を築く

各小教区のベトナム青年スタッフが役割分担し、毎夜遅くまでzoom会議を重ね、詳細について話し合い、会場の学校とも細かい調整を行いながら、計画しました。

また、週2回、仕事帰りに集まってミサを行い、その後、青年大会で披露する踊りを練習し、準備しました。

【11日（日）】
早朝から会場準備。
11:00　受付、注意事項の説明、聖歌練習、司教さま司式のミサ
13:30　開会式、体育館でレクリエーション、シャワー、夕食
19:00　ナミュール・ノートルダム修道女会の紹介、ベトナムの文化・各地の踊りの交流
21:00　テゼの祈り、交流会、就寝

【12日（月）】
6:00　起床、清掃、朝の体操、朝食
8:30　ベトナム人シスターによるセミナー・クイズ・分かち合い
12:00　昼食、記念撮影、聖歌練習、派遣ミサと派遣式
16:00　掃除、解散

学校施設をお借りするため、事前に細かく調整をしていただき、また、大会中は、校長先生、清心OBの先生がお揃いのカープTシャツで参加してくださり、保健室や会場で支援してくださいました。

本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

2025年は『聖年』です。広島教区行事として「広島教区ベトナム青年大会」を計画しています。これからも各小教区のミサに参加し、清掃や教会活動に積極的に参加していこうと思っています。

今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

青少年の活動

サビフェスとチューブロ

11月4日（月・祝）に開催を控えた、サビエルフェスタ2024（以下、サビフェス）。皆さまの応援とお祈りのお陰で、開催に向けての準備も着々と進んでおります。WYDリスボン大会に共に参加したチームのメンバーたちをはじめ、噂を聞きつけた青年たちも各所から仲間に加わり、当日は、20名を超える青年スタッフで皆さまをお迎えできそうです。

サビフェスの準備を進めるなかで、チューブロで出会った友人との再会もありました。10年の時を経て同じ企画に一緒に取り組めることには、感慨深さも覚えます。

サビフェスとチューブロ、この2つの企画は、私にとって「誰でも誘える教会のイベント」です。もちろん、お誘いした人が必ず来てくれる、参加してくれるかは分かりませんが、その時、教会との関わりがある・ないに関係なく、「楽しいから、おいで！」と声をかけたくなる。そんな企画を実施できることは、とても嬉しいなと感じています。

神様一本勝負！ができたら、本当はそれが一番良いのかもしれませんが、なかなか難しいものだと感じます。だからこそ、素晴らしい会場、一緒に運営する仲間たち、協力してくださる方々、映えな演出、美味しい食べ物、そこで芽生える友情…。あらゆる手をお借りして、少しでも多くの方に神様に触れてもらえたら、教会って良いかもと思ってもらえたらと願っています。

サビフェスが終われば、休む間もなくチューブロです！2025年は、3月27日～29日の3日間、倉敷の清心中学校清心女子高等学校の校舎をお借りして開催致します。今年は定員百名！詳細は、近日中に小教区へお送りします。中3～高3の皆さま、先着ですので、乗り遅れずにお申し込みくださいね！

（青年活動企画室・益田）

ひと粒〈122〉

『ビリビリ』

イエズス会　広島学院教諭　越智　直樹　神父

広島に居を移して早いもので半年が経ちました。カシャカシャと写真を撮りながら「うわ、原爆ドームだ！」とか「あの広電いい味出してるなぁ」などと目新しく思っていたのも束の間、それもこれも広島の生活風景なのだと納得しつつあります。広島に来られたお客さんを住み始めたばかりの私が案内するという無茶を重ねたこともあって、地図を確認しないで出歩くこともできるようになりました。生活圏内だけとはいえ電停の名前、町名、橋の名前を聞いても何となく土地勘が働くようになってきました。行きつけのお好み焼き屋さんもできました。まだ半年だったっけと不思議に思うほどに、濃い日々を過ごさせていただいています。受け入れて下さっている皆様のおかげです。ありがとうございます。

普段は学校で千人を超える生徒たちと賑やかに過ごしています。同僚の先生方に支えて頂きながら、授業をしたり、部活をしたり、カトリック研究会をしたり、祈りの集いをしたり、相談に乗ったり、おしゃべりをしたり。チャイムが鳴るごとに新しい何かが始まる、そんな毎日は生徒たちの笑顔と涙と青春とが混ざり合った眩しい奇跡の瞬間の連続です。

実はこの文章を書いているのは体育祭当日。全身の力という力を体中にみなぎらせながら一生懸命走っていく若者たちの、ビリビリするようなエネルギーのほとばしりに、朝いちばんから揺さぶられています。勢いあまって転びながらバトンを仲間に託している様子、そんな仲間を応援したい気持ちを爆発させながら叫んでる様子を見ていたら、こちらまでビリビリ感じてしまって涙が出てくる始末です。

こうやって全力で頑張ってる感じって、心に響きます。変哲のない毎日のように見えても、数えきれないほどのかけがえのない瞬間があって、沢山のストーリーが紡がれているのです。そしてそこには神様からのビリビリするようなお恵みも溢れているのです。

風紋

祝　日本被団協ノーベル平和賞受賞。平和の使徒となろう、核なき世界基金など、広島教区の祈りと小さな活動も、核兵器廃絶への確かな一歩となっていると実感しています。（み）